

海旅復活でツーリズムのバランス回復を目指そう

2 期目を迎える百木田会長が会員へ呼びかけ

5 月 8 日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが 2 類から 5 類に移行。それから約 1 カ月経った 6 月 2 日、トラベル懇話会は東京プリンスホテルで第 45 期通常総会を開催しました。5 類移行で人流の阻害要因が完全になくなり、旅行需要が力強く回復し始めたタイミングでの総会開催。集まった会員の表情にも明るさがうかがえ、2 期目を迎えることになった百木田会長も未来志向の明るいエネルギーで第 46 期を牽引していく姿勢を示しました。



第 46 期役員（キックオフパーティー欠席者を除く）



第 45 期（2022 年 4 月～2023 年 3 月）
通常総会に先立ち百木田康二会長は、「ト

ラベル懇話会は 1978 年の創設から丸 45 年。任意団体としてこのような歴史を持つ集まりは少なく、改めて当会の歴史の重みを感じます。昨年 6 月から 1 年間会長職を務めている間、徐々に環境が変化し水際対策の緩和が進み、国内では全国旅行支援が実施され、そして今年 5 月 8 日には新型コロナウイルスが 2 類から 5 類へ移行し人流の

回復が大きく進みました。トラベル懇話会の活動もリアルでの活動を取り戻すことができ喜ばしく思います」と1年間を振り返りました。

そのうえで「しかしながらアウトバウンドの回復は順調とは言えずインバウンドとアウトバウンドのバランスが崩れてしまいました」と残る課題にも言及。「インとアウトのバランスが取れたツーリズムの回復へ、双方向の交流拡大に注力しなければなりません。また要員不足は業界全体の大きな課題となっています。いまこそトラベル懇話会での議論や会員同士の意見交換が重要になっています」と会員に呼びかけました。

正会員出席数 55 名、委任状 35 の議決権数 90 で、正会員数 114 名の過半数をクリアして成立した総会では、第 46 期の事業計画が承認され、脱コロナの状況を見据えて再度復帰希望者の取り込みを含めた会員拡充方針や各種行事の充実、会員間の情報共有の場をできるだけ設定することなどが決まりました。

なお役員を選任について「期初 4 月 1 日の年齢が 70 歳以上の会員は役員に選任しない」ことも決まり、役員の定年年齢が 68 歳から 72 歳へ変わりました。

百木田会長が 2 期目を務めることに

第 45 期通常総会では第 46 期の役員も選任され、戸井川裕美子氏、西尾忠男氏の両理事の退任と、大山恭平氏および萬年良子氏の理事新任が決まり、任期中理事 12 名、任期中幹事 2 名、再任理事 8 名を含め合計 24 名の役員を決定。さらに役員によって百

木田会長が引き続き第 46 期の会長に選ばれ会長として 2 期目を迎えることになりました。

第 45 期通常総会後の第 46 期キックオフパーティーで挨拶に立った百木田会長は、海外旅行復活への思いを言葉に込め「海外旅行の回復はまだまだですが、観光庁と JATA が共同で『今こそ海外！宣言』を力強く打ち出し、パスポート取得費用の補助も用意してくれるなど、いよいよ海外へ目を向ける動きを見せています。まずは機運醸成が大きく動き出したことを喜びたいと思います」と観光庁や JATA の動きを歓迎しました。

一方でトラベル懇話会の取り組みにつ



通常総会で挨拶する百木田会長

いては「会の活動を、わくわくする魅力的なものにしていくため今までやってきたことを引き継ぎながら、新たなチャレンジをしていくつもりです。またトラベル懇話会を、会員が気兼ねなく集い忌憚のない意見を出しやすい集まりにしていくつもり

ですので期待していただきたいと思いま
す」と2期目の抱負を述べました。



来賓として挨拶した JATA 高橋会長



キックオフパーティーは坂口副会長の音頭で乾杯

5 類移行の 5 月 8 日は独立記念日

キックオフパーティーにはトラベル懇話会会員のほか、旅行業界人を含む計 88 名が参加しトラベル懇話会の今後の活動にエールを贈ってくださいました。

パーティーでは来賓を代表して JATA の高橋広行会長が挨拶。「3 年に及ぶコロナとの戦いを共に戦い抜いた戦友たちと労苦をねぎらい合い、努力を讃え合いたい」と参加者に語り掛け、「5 月 8 日の 5 類移行は、あらゆる規制が解除されたという意味で、ついにコロナとの決別の日が訪れたことを意味し、私自身としてはコロナからの独立記念日だと思っています」と喜びを語りました。

続けて高橋会長が喫緊の課題として挙げたのが海外旅行の復活。観光庁や旅行会

社、航空会社、空港会社、観光局と協力して行う「Imakoso 今こそ海外！」キャンペーンに触れ、「キャンペーンの発表記者会見で観光庁の和田長官が、自らの言葉でメディアを通して国民に対し海外旅行を促すメッセージを発したことは画期的。国内外に対し極めて大きなメッセージ効果があったと思います」と今後への期待感を述べると共に、国内・インバウンド・海外の三位一体によるツーリズムの回復への協力をパーティー参加者へ呼びかけました。

この後、坂口法久副会長が「長いコロナ禍をやっと抜け、潮目が変わり新たな風が吹くと思います。しかし人間で言えば難病による 3 年間の入院生活が終わったようなもの。前のめりになりすぎていきなり全力で走ってしまえば大変なことになりかねません。ここで改めて足元を見つつ健康にも留意して企業の隅々までチェックしながら、トラベル懇話会と共に新しいステージに向かっていきましょう」と挨拶、乾杯となりました。台風の接近するあいにくな天候のもとでの開催となった第 45 期通常総会及と第 46 期キックオフパーティーでしたが盛会のうちに終了となりました。